

(案)

村上市歯科保健計画

～ 生涯自分の歯でしっかり食べよう ～



村上市観光キャラクター
「サケリン」

村上市

平成26年3月



支えあい安心して暮らせる 思いやりのまちづくり

はじめに

村上市では、平成22年3月に健康むらかみ21計画を策定し、「自分の健康に関心を持ち、よい生活習慣を身につけよう」を基本方針に市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組むとともに、家庭や地域、関係機関が連携して健康づくりに取り組んでいるところであります。

このたび、市民が歯と口の健康づくりの重要性を認識し、実践できるよう歯科保健に取り組むための「村上市歯科保健計画」を策定いたしました。策定にあたり、市民を対象にアンケート調査やフォーカスインタビューなど、歯や口に関する実態調査を行いました。

本計画は胎生期から介護・障がいまでの取り組み方針や評価指標を掲げて、行政や関係機関が連携して市民の知識や関心を高めながら、目標値の達成にむけて取り組んでまいります。さらに歯科保健活動の充実を図るために、歯科医師、歯科衛生士とともに、市民の歯の健康づくりの啓発普及を行っていきます。

本市でも、8020運動をさらに推進するため、生涯を通じて健やかに暮らせるために、歯科保健事業を積極的に展開してまいります。

最後に、計画の策定にあたりご審議いただきました村上市健康づくり推進対策委員の皆様にご心から感謝を申し上げます。

平成26年3月

村上市長 大滝平正

目 次

- I. はじめに
- II. 目 次

第 1 章 歯科保健計画の基本方針

- 1. 計画策定の背景と目的 P. 1
- 2. 計画の位置づけと期間 P. 1
- 3. 計画の基本方針 P. 2～3

第 2 章 年代別 歯の健康状況・課題・取り組み

- 1. 胎生期 P. 4～5
- 2. 乳幼児期 P. 6～8
- 3. 学齢期・思春期 P. 9～11
- 4. 成人期 P. 12～14
- 5. 老年期 P. 15～16
- 6. 介護・障がい P. 17～19

第 3 章 計画の推進体制

- 1. 計画の推進体制 P. 20
- 2. 評価・見直し P. 20
- 3. 評価指標 P. 21～22
- 4. 年次計画 P. 23～27

資 料 編

- 1. 歯科保健計画アンケート調査結果 . . . P. 28～32
- 2. 村上市健康づくり推進対策委員会委員名簿 P. 33

第1章

歯科保健計画の基本方針



1. 計画策定の背景と目的

生涯を通じて健やかでいきいきとした生活を送るためには、身体や心の健康はもとより、歯や口腔の健康状態を良好に保つということが欠かせない要件です。

国では平成元年から、生涯自分の歯で食べるために 80 歳まで 20 本の歯を保つことを目標にした「8020 運動」を推進しています。

新潟県では昭和 56 年から、「子供の虫歯を半減する」ことなどを目標にした歯科保健計画を展開し、その結果として 12 歳児では一人平均虫歯本数が大幅に減少し 13 年連続で日本一虫歯の少ない県になりました。

しかし、村上市では、乳幼児期のむし歯罹患率も高く、12 歳児の歯肉炎の有病率も高い状況にあります。また、成人歯科健診の受診率も約 10 人にひとりと低く、症状のない状態での「歯科健診」意識は高くありません。高齢者や要介護者でも、身体疾患や療養が優先し歯や口腔機能に関しての知識やケアが充分とは言えない状況です。

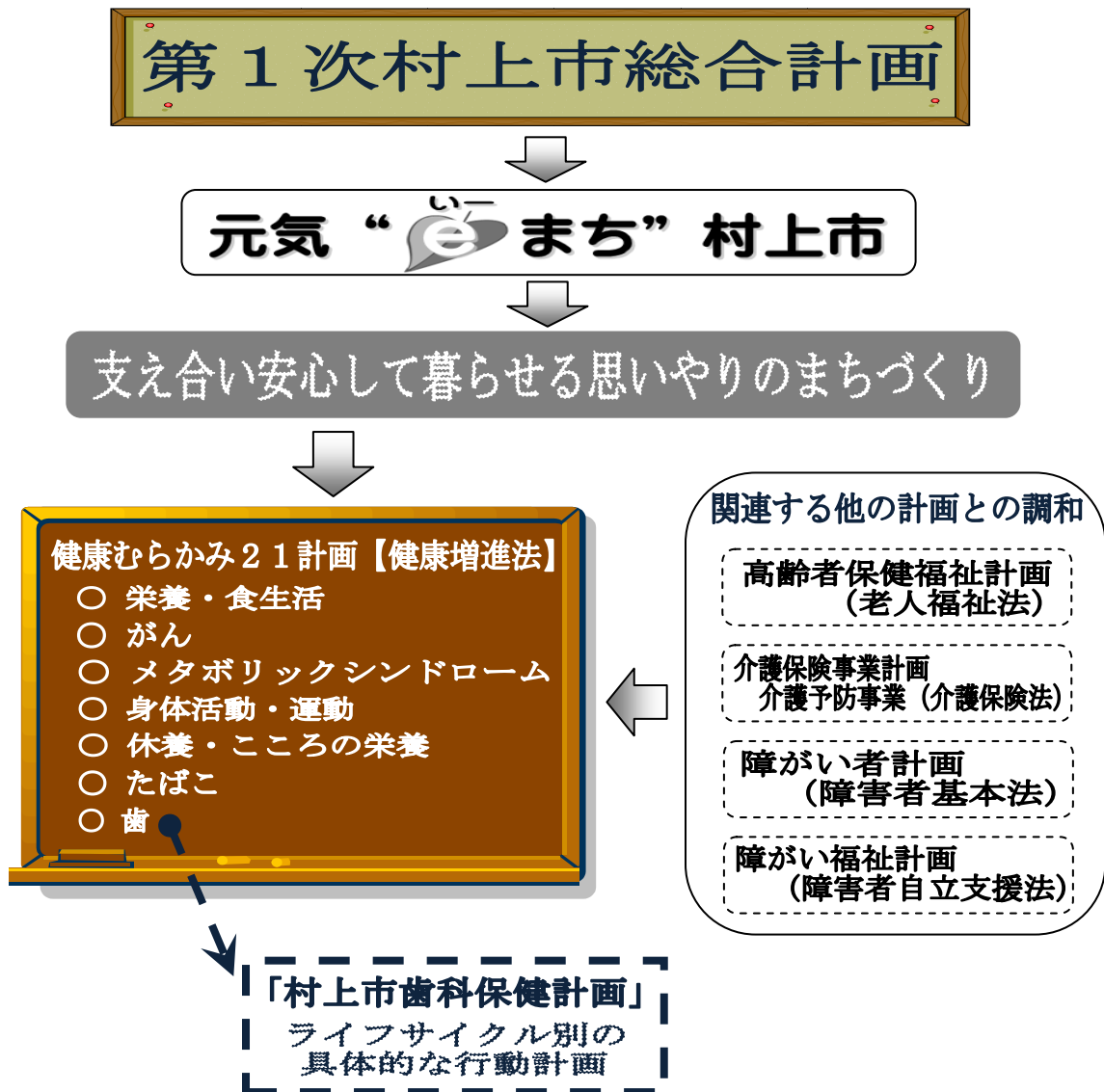
これらのことから、市民が「歯と口の健康づくりを図る」ことの重要性を認識実践できるように個人、家庭、地域、関係団体等、協働で歯科保健に取り組むための行動計画として「村上市歯科保健計画」を策定するものです。

2. 計画の位置づけと期間

この計画は、平成 22 年に策定した「健康むらかみ 21」を基にし、「歯」の分野の目標達成指針「生涯自分の歯でしっかり噛んで食べられる」を具体的に進めるための計画です。

この計画の期間は、平成 26 年度から平成 30 年度の 5 年間とします。

《市の各計画との関連体系》



3. 計画の基本方針

この計画では、各年代層を6つのライフステージにわけ、それぞれにアンケート調査やグループインタビューを行い、現状と課題を整理したうえで行動計画を定めました。

「生涯自分の歯でしっかり噛んで食べられる」を目標とし、市民一人ひとりがこのことを自覚し主体的に目標達成に向け取り組んでいくために、「個人・家庭・地域」「関係機関」「行政」に分けて取り組みをすることとしました。

<計画の体系>

健康むらかみ 21 基本方針

自分の健康に関心を持ちよい生活習慣を身につけよう



歯科保健計画目標

生涯自分の歯でしっかり噛んで食べられる



行動目標

- 定期的に歯科健診を受ける
- 歯間清掃用具を使う
- 一日 3 回歯みがきをする
- 歯周病を理解する

各期スローガン

胎生期：ママと赤ちゃんの歯を守ろう

乳幼児期：大切な乳歯を親子で守ろう

学齢期・思春期：歯とお口の手入れ方法を身につけよう

成人期：歯周病を予防しよう

老年期：しっかり噛めるお口を持とう

介護・障がい：お口の健康に関心を持とう

第2章

年代別 歯の健康の 状況・課題・取り組み



1、「胎生期」

目標

ママと赤ちゃんの歯を守ろう

みんなの声

《妊婦歯科健診を受診した理由について》

- ・病院の母親学級で歯科健診を受けてくださいと言われた。
- ・むし歯の菌が胎児に影響するから必ず歯科健診に行かなければならないと思った。
- ・第1子の時は、他の市で母子手帳をもらったので、妊婦無料歯科健診の制度があり、受診した。

《その他》

- ・母子手帳の「歯の健康」を見ただけでは受診しようと思いきにくい。
(パパママ応援教室及び赤ちゃん広場の参加者へインタビュー)

<現状>

- ・歯科健診を受けた人は22.0%で5人に1人の割合でした。受けない人の理由としては、症状がないからと答えた人が70%、多忙が31.1%でした。
- ・妊婦無料歯科健診があれば利用したいという人は、91%と高い割合でした。(図1)
- ・歯間清掃用具を使用していた人は、40.9%でした。(図2)
- ・歯周病の影響として「早産や低出生体重児」があることを知っている人は、20.2%でした。(図3)
- ・妊娠中の喫煙率は3.2%でした。(健康むらかみ21計画より)

図1

妊婦無料歯科健診の利用

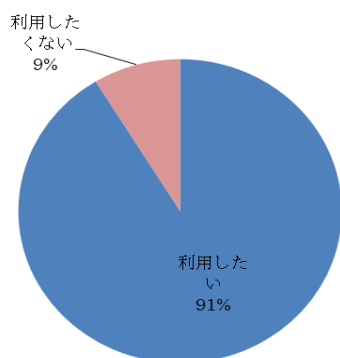


図2

妊婦の歯間清掃用具の使用状況

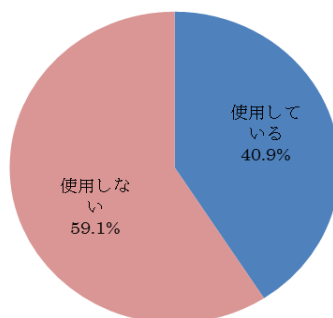
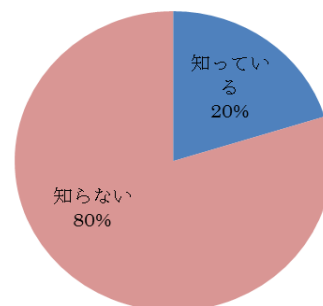


図3

歯周病と早産・低出生体重児との関連を知っている割合 (%)



<課題>

- ・妊娠による身体の変化からお口の健康を守るために、歯科健診を受ける必要がある。
- ・赤ちゃんの歯の土台づくりをするために、妊娠中にバランスのよい食事をとる必要がある。

<取り組み>

個人・家庭・地域	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後に歯みがきをする。 ・歯間清掃用具（デンタルフロス・歯間ブラシ）を使う。 ・体調が安定したら、歯科健診を受ける。 ・バランスの良い食生活を心がける。
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・無料歯科相談等を実施し、気軽に相談できる機会を設ける。【歯科医師会】 ・妊婦教室で歯科保健指導の充実に努める。【医療機関】 ・妊娠期の歯とお口の健康の大切さを普及する。【歯科医師会】
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・市報やホームページ、パンフレット等で妊娠期の歯とお口の健康の大切さを普及する。 ・歯科医師会が実施する無料歯科相談を広報する。 ・パパママ応援教室で、歯科衛生士等による歯科保健指導を実施する。 ・妊婦歯科健診を実施する。 ・早産や低出生体重児、歯周病の予防のため、禁煙を推進する。 ・妊娠中の食生活の大切さを普及する。 ・妊娠届出時に歯の大切さを妊婦に伝える。

<評価指標>

評価指標	平成24年度	目標値
妊娠中に歯科健診を受ける人の割合	22.0%	27.0%
歯間清掃用具（デンタルフロスまたは歯間ブラシ）を使用している人の割合	40.9%	45.0%
歯周病が早産や低体重児に影響していることを知っている人の割合	20.2%	25.0%

2、「乳幼児期」

目標

大切な乳歯を親子で守ろう

みんなの声

- ・子どもの歯の手入れの方法が分からない。
- ・乳歯の歯並びが悪い。永久歯じゃないから大丈夫かな・・・。
- ・乳歯だからといって、虫歯にするのはダメだと思う。
- ・歯科医院にどんな歯の状況になったら連れて行けばいいか分からない。
- ・年に2回の集団歯科健診でむし歯に気づいても遅いと思うので、その間に使用できる医療機関での個別健診の受診券が欲しい。
- ・仕上げみがきは大変なので、ジュースをあまり飲まないよう、お茶をあげていた。
- ・市販のフッ素を購入して、自分で子どもに塗っている。

(赤ちゃん広場利用者へインタビュー)

<現状>

- ・1人平均むし歯数は、3歳児は0.8本、5歳児は3.04本で、いずれの年齢も県平均値よりも高い状況でした。(図1)
- ・むし歯有病者率は、1歳6か月児は3.4%、3歳児は23.4%、5歳児は49.1%と、いずれの年齢も県平均値よりも高い状況でした。(図1)
- ・毎食後に歯みがきをしている園児は、6.9%でした。
- ・仕上げみがきをしている人は、2歳児で92.2%でした。
- ・歯みがきを3回以上している、歯に関心の高い両親を持つ子供は、子供の歯みがき回数も多く、だらだら食べをする割合も低くなっています。(図2・図3)
※「だらだら食べ」の定義：「おやつ時間が決まっていない」または「おやつを3回以上食べる」とする。
- ・乳幼児健診のフッ化物塗布の受診率は、1歳6か月児で99.2%、2歳児で99.5%、2歳6か月児で97.8%、3歳児で98.6%と高い塗布率になっています。
- ・2歳児でおやつ時間を決めている人は75.0%、年少児では59.9%、年中児では56.7%、年長児では56.0%と、年齢が上がるにつれて減少しています。
- ・市の歯科健診の特徴として、一人の子が多数のむし歯を持っている傾向が高くなっています。

図1

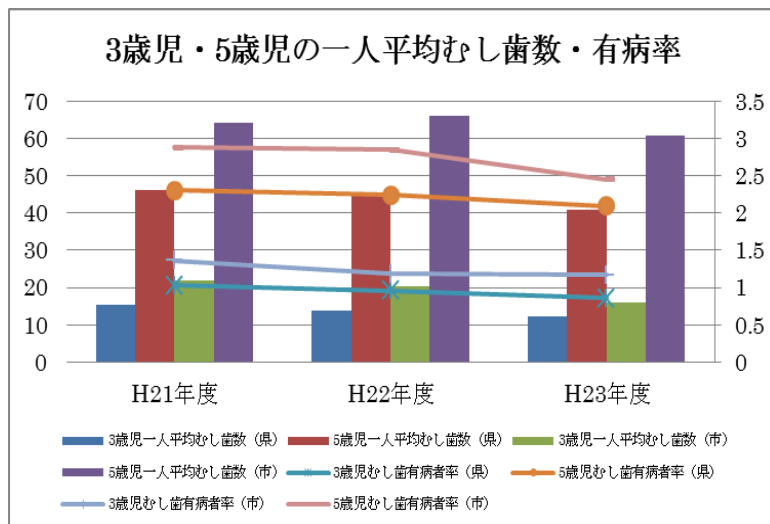


図2

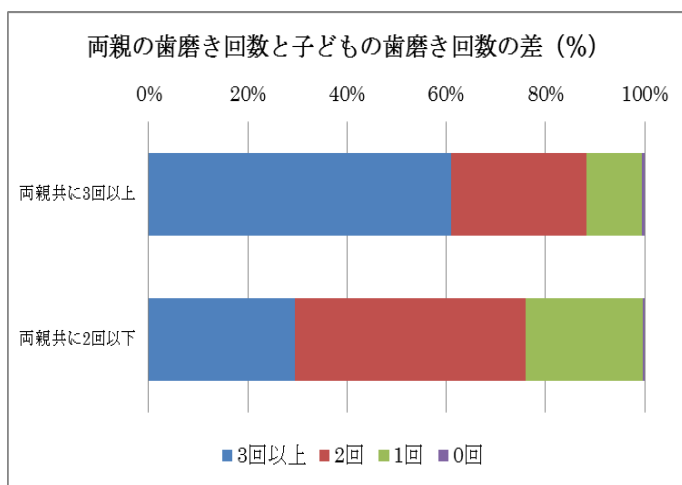
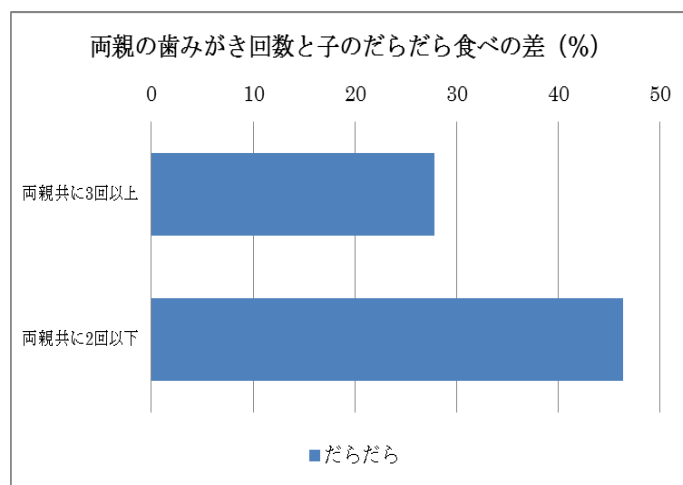


図3



<課題>

- ・毎食後の歯みがきと仕上げみがきを定着させるため、保護者自身が知識と関心をもつ必要がある。
- ・おやつのだらだら食べが乳歯のむし歯の原因になることを、子供を取り巻く家族等が認識できるように普及していく必要がある。

<取り組み>

個人・家庭・地域	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に歯科健診を受ける。 ・健診後治療勧告を受けたら、早めに受診する。 ・乳歯の頃からの口腔ケアの大切さを知り、親子で毎食後の歯みがき習慣をもつ。 ・正しい仕上げみがきの方法を知り、小学校低学年まで仕上げみがきを継続する。 ・定期的にフッ化物塗布及び洗口を受ける。 ・おやつ適切な量や回数を知り、だらだら食べをしないように努める。 ・よく噛んで、バランスの良い食事を心がける。
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・治療等が必要な子どもに受診勧奨をする。【保育園・幼稚園】 ・保育園だより等を通じて、歯やお口の健康の大切さを普及する。【保育園・幼稚園】 ・無料歯科相談等を実施し、気軽に相談できる機会を設ける。【歯科医師会】 ・定期的に歯科健診を継続する。【保育園・幼稚園】 ・嘱託医が年1回講話や歯科保健指導を実施する。【保育園・幼稚園】
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・市報やホームページ、パンフレット等で、乳歯の大切さを普及する。 ・歯科衛生士による歯科保健指導の機会を増やす。(健診でのブラッシング指導等) ・定期的に乳幼児歯科健診及びフッ化物塗布を実施し、欠席者に受診勧奨をする。 ・親子歯科健診の実施を検討する。 ・給食やおやつによく噛むことを意識できるメニューを取り入れる。 ・乳幼児の歯科保健体制を検討する。 (1歳児及び3歳半児歯科健診・フッ化物塗布を検討) ・歯科医師会が実施する無料歯科相談を広報する。 ・フッ化物洗口の重要性について情報提供する。

<評価指標>

評価指標	平成24年度	目標値
3歳児の一人平均むし歯数	0.8本	0.5本
3歳児のむし歯有病者率	23.4%	20.0%
2歳児の仕上げみがきをしている人の割合	92.2%	95.0%
おやつのだらだら食べをしている園児割合	44.9%	40.0%

3、「学齢期・思春期」

目標 歯とお口の手入れ方法を身につけよう

みんなの声

- ・むし歯の多い子は、歯染め染色剤をしてみると、みがき方が雑で正しい歯みがきできていない。
- ・中学生では、指導しても自分の仕方や習慣が確立されていて、修正が効きにくい。
- ・検診で歯肉炎だけを指摘された人は、あまり受診につながらない。
- ・歯みがきをしないと「気持ち悪い」と感じている子もいる。

(養護教諭へインタビュー)

<現状>

- ・12歳児むし歯有病者率は、村上市21.2%と県平均28.8%よりも低い状況です。(図1)
- ・12歳児1人平均むし歯本数は、年々減少してきており、村上市0.48本で県平均0.68本よりも少なく、県内順位は8位/30位でした。(図1)
- ・歯肉炎のみられる(GO・G)*割合は、小学生9.2%、中学生26.7%でした。中学生は県平均21.4%に比べて高い状況でした。(図2)
- ・治療を勧められ、歯科医院を受診する割合は、小学生は約50%ですが、中学生になると約25%と受診率が低くなっています。また、歯肉炎では、小中学生ともに受診する割合が県平均よりも低い状況です。
- ・「歯みがきを1日3回以上行っている」と答えた小学生は74.9%、中学生は53.1%でした。
- ・「歯間清掃用具(デンタルフロスまたは歯間ブラシ)を使用している」と答えた小学生は21.3%、中学生は14.2%でした。
- ・「仕上げみがき回数を1日の1回以上行っている」と答えた小学1.2年生は51.3%でした。
- ・「歯周病がどのような病気かを知っている」と答えた小学6年.中学3年生は、知らない人(25%)よりも歯間清掃用具を利用している人の割合は41%と高くなっています。
- ・荒川・山北地区で歯科衛生士による巡回歯科指導を実施しています。

*GO・Gとは (学校健診で使用する記号)

GOとは、歯肉に軽度の炎症症状があり定期的な観察が必要な者であり、

Gとは、歯科医師による精密検査、診断、治療が必要と判定された者である。

図1

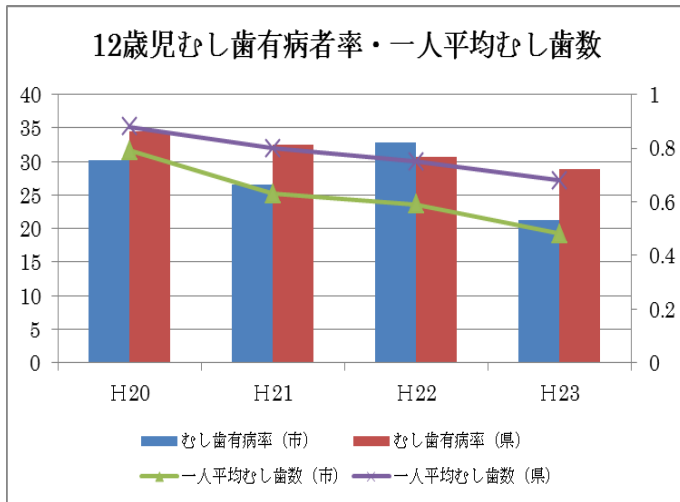
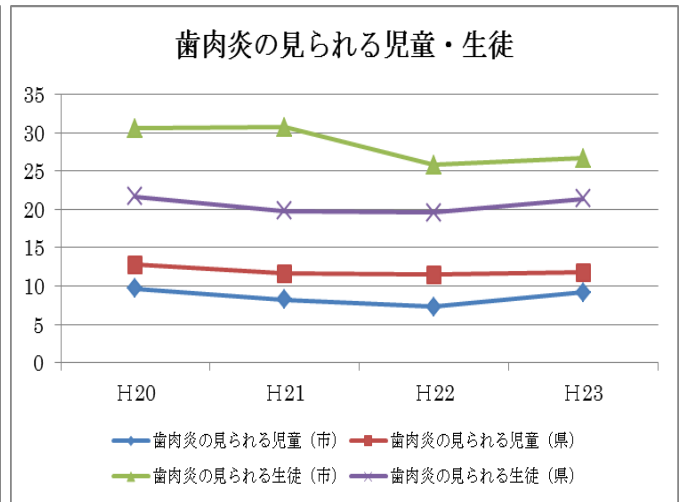


図2



<課題>

- ・仕上げみがきを低学年まで続けるために、保護者の意識を高める必要がある。
- ・むし歯や歯周疾患を予防するために、セルフケア意識を高める必要がある。

<取り組み>

個人・家庭・地域	<ul style="list-style-type: none"> ・鏡をみながらしっかりと1日3回以上歯みがきをする ・小学校低学年までは仕上げみがきをする ・デンタルフロスを1日1回正しく使う ・学校歯科健診などで治療勧告があったら早めに受診する ・学校や歯科医院などで正しい歯みがき方法を学び、実践する ・家庭で歯みがき時など、お口の中や歯を見たり、話題にしたりと関心を持つ ・家族みんなでバランスの良い食事を取り、しっかりよくかんで食べる
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・安全にフッ化物洗口を実施する【小学校】 ・昼食後の歯みがき時間を確保し、働きかける【小・中学校】 ・歯科保健情報を児童、生徒や家庭に提供し、歯科保健意識を高める【小・中学校】 ・治療勧告となった場合、受診勧奨を徹底する【小・中学校】 ・学校歯科医と連携し、歯と歯肉の健康について講話する【学校・歯科医師会】
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・広報やパンフレット等を配布し、むし歯、歯周病について情報提供する ・歯周病予防のため、中学生に歯間清掃用具を配布する ・小、中学校での歯科衛生士による巡回歯科指導を拡大する ・食育事業等を通じ、歯科衛生士等による歯やお口の健康づくりを推進する ・中学校でのフッ化物洗口の実施を検討する ・歯科医師会が実施する無料歯科相談を広報する。

〈評価指標〉

評価指標	平成24年度	目標値
12歳児むし歯有病者率	21.2% (H23)	18.0%
12歳児1人平均むし歯本数	0.48本 (H23)	0.3本
歯肉炎の見られる(GO・G)小中学生の割合	小学生 9.2% 中学生 26.7% (H23)	5.0% 15.0%
歯間清掃用具(デンタルフロスまたは歯間ブラシ)を使用している小中学生の割合	小学生 21.3% 中学生 14.2%	25.0% 20.0%
仕上げみがきを1回以上行っている小学生の割合(小1・小2)	51.3%	55.0%
歯周病を知っている小中学生の割合(小6・中3)	27.4%	32.0%

4、「成人期」

目標

歯周病を予防しよう

みんなの声

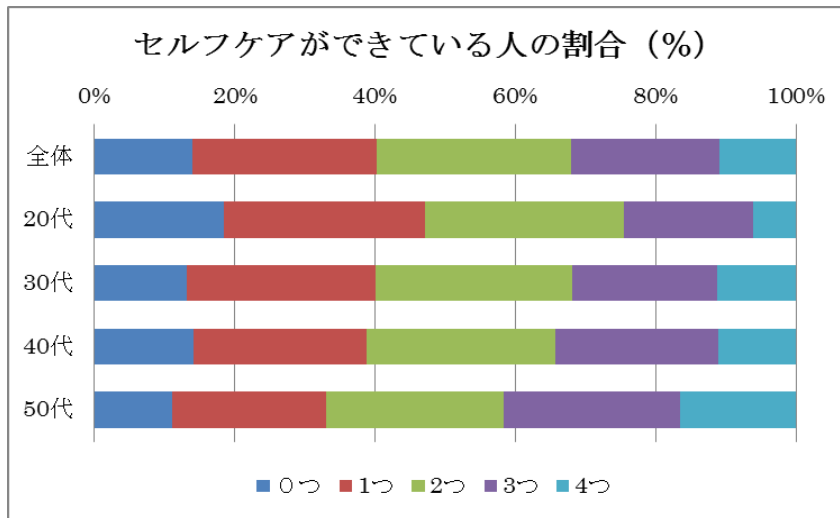
- ・ 歯や口臭は気になるが、歯ぐきを意識して見ることは少ない。
- ・ 歯周病が命に関わる病気ではないと思っている。
- ・ タバコと歯周病について関係があるとは思わなかった
- ・ 歯科受診は血が出たくらいでは行かない。痛くなったり、詰め物がとれたりすれば行く。
- ・ 歯科受診直後は歯みがきの仕方を変えるが、なかなか続かない。
- ・ 将来、入れ歯はしたくない (神納小学校 PTA へインタビュー)

<現状>

- ・ 市の成人歯科健診の受診率は 23 年度 9.8%、24 年度 10.2%です。
- ・ 20～60 代の 3 人に 1 人(31.1%)は定期検診を受けています。そのうち、一番定期受診が高いのは 50 代で 31.3%、一番低いのは 20 代の 16.1%で年齢が高くなるにつれて定期受診する率が上がっています。
- ・ 歯周病が全身に及ぼす影響を知っている人は 60.1%、喫煙と歯周病の関連について知っている人は 31.7%でした。
- ・ 歯間清掃用具のうち、デンタルフロスまたは歯間ブラシのどちらかを使用している人の割合は、53.9%でした。
- ・ セルフケアができている割合は、全体で 10.8%しかなく、20 代に関しては 6.1%、一番できている 50 代に関しても 16.5%でした。(図1)

*セルフケアができている人の定義：「1 日の歯みがき回数が 3 回以上」かつ「歯間清掃用具を使用している」かつ「1 年以内に歯科受診している」かつ「歯周病について知っている」

図1



<課題>

- ・自分の歯を残すために、歯周病についての正しい理解をする必要がある。
- ・歯周病を予防するために、正しい口腔ケアを実施・継続する必要がある。

<取り組み>

個人・家庭・地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報を見たり講演などに参加し、歯周病についての理解を深める。 ・ 1日3回歯みがきをする ・ 家族で歯間清掃用具を使う。 ・ 定期的に歯科健診を受ける。
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯周病の理解のために講演等実施し啓発を行う。【歯科医師会・事業所】 ・ 口腔セルフケアについて普及する。【歯科医師会等】 ・ 職場で食後の歯みがきを徹底する。【事業所】 ・ 歯科医院に受診しやすい環境を作る【事業所】 ・ 無料歯科相談を実施し、気軽に相談できる機会を設ける【歯科医師会】
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域や事業所で歯周病についての知識を普及するために、広報掲載、パンフレット等の配布を行う。 ・ 歯周病への知識を普及するために地域や事業所で歯科衛生士等が講話を実施する。 ・ 成人歯科健診の個別案内による受診勧奨をする。 ・ 妊婦歯科健診・親子歯科健診を実施する。 ・ 事業所等に歯科健診の実施を勧める。 ・ 歯科医師会が実施する無料歯科相談を広報する。

〈評価指標〉

評価指標	平成24年度	目標値
歯科定期健診をしている人の割合	31.1%	35.0%
成人歯科健診受診率	10.2%	13.0%
歯間清掃用具（デンタルフロスまたは歯間ブラシ）を使用している人の割合	53.9%	70.0%
歯周病が全身に及ぼす影響を知っている人の割合	60.1%	65.0%
喫煙と歯周病の関係を知っている人の割合	31.7%	36.0%
セルフケアができている人の割合	10.8%	15.0%

5、「老年期」

目標 しっかりかめるお口をもとう

みんなの声

- ・入れ歯の歯みがきはしていない。寝るとき洗浄液に浸けている。
- ・歯がいいと何でもおいしく食べられ健康になれる。
- ・血圧など身体のコトは気になり早めに受診するが、歯については気にしなかったり我慢したりすることが多い。
- ・口が回りにくくしゃべりづらくなった。
- ・がんや脳卒中の話は聞いたことがあるが、歯の話は聞いたことがない。

(介護予防教室参加者へインタビュー)

<現状>

- ・70歳で自分の歯が20本以上残っている人は64.2%でした。
- ・一日3回歯みがき習慣のある人は、32.2%です。
- ・残存歯のある人で歯間清掃用具を使っている人は61.1%です。(図1)
- ・歯周病と全身の健康の関連を知っている人は67.1%です。
- ・固いものが噛みにくくなったと感じている人が24.2%、お茶や汁物でむせるようになった人が20.3%、口の渇きが気になる人が19.0%(H24.基本チェックリスト)などお口の不安を感じ始めています。(図2)

図1

残存歯のある人の歯間清掃用具の使用状況

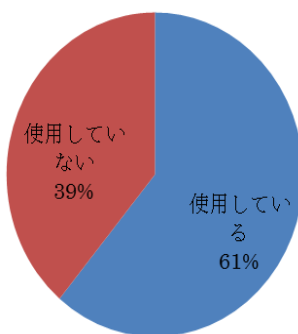
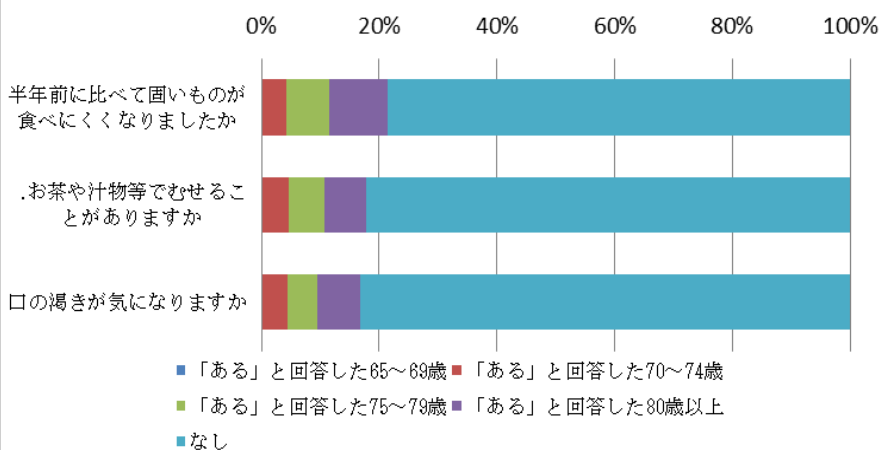


図2

お口の不安の有無



<課題>

- ・全身の健康状態を良好に保つために、お口のセルフケアを維持する必要がある。
- ・いつまでも美味しく食べるために、噛む力や飲みこむ力を維持する必要がある。

<取り組み>

個人・家庭・地域	<ul style="list-style-type: none"> ・歯やお口の健康に関心を持つ。 ・毎日自分のお口の状態を観察し、毎食後に歯みがきとお口の手入れをする。 ・かかりつけ歯科医を持ち、定期的に歯科受診をする。 ・地域の集まりや老人クラブなどで歯やお口の健康の健康教育を受ける。 ・口腔機能向上事業に参加する。
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・歯や入れ歯の手入れについて指導する。【歯科医院】 ・無料歯科相談を実施し、気軽に相談できる機会を設ける。【歯科医師会】
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・市報やチラシなどを通じて歯やお口の健康について普及する。 ・地域の茶の間や、老人クラブを利用して、健口体操を普及する。 ・口腔機能向上事業を実施する。 ・歯科衛生士等が地域で歯やお口の健康教育を実施する。 ・歯科医師会が実施する無料歯科相談を広報する。

<評価指標>

評価指標	平成24年度	目標値
70歳で自分の歯が20本以上ある人の割合	64.2%	70.0%
80歳で自分の歯が20本以上ある人の割合	26.1%	35.0%

6、「介護・障がい」

目標

お口の健康に関心を持とう

みんなの声

- ・ 市内で受診ができる医療機関の情報が欲しい。
- ・ 歯科受診に限ったことではないが、どこにいても障がいの説明をしなくてはいけない。
- ・ 近くに障がいのことをわかっている先生（歯科医院）がいてほしい。
- ・ 歯科受診をする時には数日前から繰り返し説明をするが、診察室でパニックをおこすので大変。

（知的障がいの子供をもつ母親へインタビュー）

- ・ 入れ歯だから、歯はもう大丈夫。
- ・ 長期入院をした時に歯を悪くした。入れ歯の調子が変わったが我慢をした。
- ・ 地域活動支援センターで年に1回歯科健診をしている。そこで悪いところがあれば受診するが、定期的に歯科受診をしていない。

（地域活動支援センター利用者へインタビュー）

<現状>

- ・ お口の手入れ（歯みがきや入れ歯みがき等）を、1日1回と答えた人が38.1%で1番多かったです。3回している人は18.2%、お口の手入れをしないという人が3.3%いました。
- ・ お口の手入れを1日3回する人と、しない人を比較すると、20本以上の残存歯がある人は1日3回する人のほうが、2倍多くいました。（図1）
- ・ 現在のお口の状態で満足している人が69.5%で、そのなかで51.8%の人が何らかの不調を訴えており、症状はあるがあきらめているという意見もありました。
- ・ この一年間で歯科受診をした人の割合は、23.7%と各年代と比較して一番少なかったです。受診をしない理由として、10.3%の人が寝たきりだから、4.7%の人が認知症だからと答えています。
- ・ 20本以上の残存歯がある人は、歯科受診をしている人が多くいました。（図2）
- ・ 障がい・介護を必要とする人と健常者の残存歯を比較すると、残存歯が20本以上ある割合は健常者の約半分、残存歯0本の割合は健常者の約3倍でした。（図3）
- ・ 在宅要介護者等訪問歯科健診（県事業）の利用者は、平成23年度7件・平成24年度4件でした。（表1）

図1

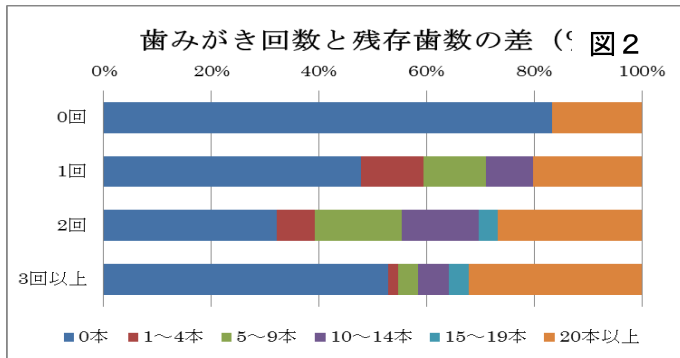


図2

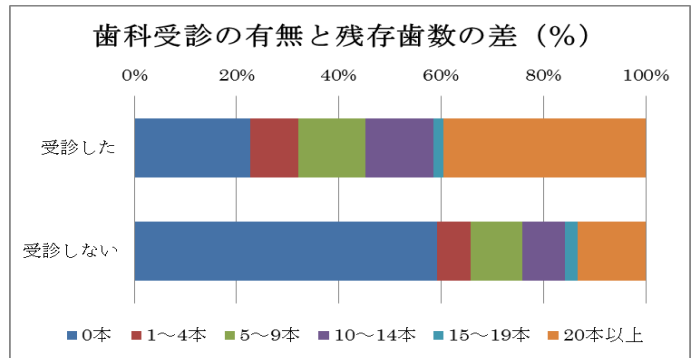


図3

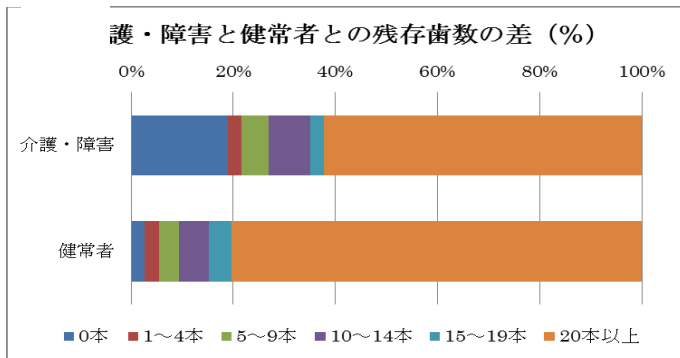


表1

在宅要介護者等訪問歯科健診の利用者（県事業）

平成22年度	平成23年度	平成24年度
13件	7件	4件

<課題>

- ・口腔機能を維持するために、本人に携わる人が適切な口腔ケアを実施する必要がある。
- ・お口の変化に気づくために、かかりつけ医を持ち、定期受診をする必要がある。

<取り組み>

個人・家庭・地域	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケアの必要性を理解し、本人・家族が正しい口腔ケアを実践する。 ・介護を要する人や障がいのある人の歯やお口の状態に異常がないか、周囲の人が気づく ・かかりつけ歯科医院を決め、定期的に受診をする。
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問歯科診療等の情報提供をし、相談や受診しやすい体制づくりをする。【歯科医師会】 ・障がい者診療歯科医師を周知する。【歯科医師会】 ・歯科医院のバリアフリー化をめざす【歯科医師会】 ・施設職員が、正しい口腔ケアの方法や、重要性を理解し実践する。【介護・福祉施設等】 ・在宅要介護者等無料歯科健診の制度を理解し、普及に努める。【介護支援専門員・相談支援専門員等】 ・無料歯科相談等を実施し、気軽に相談できる機会を設ける。【歯科医師会】

第2章 年代別 歯の健康の状況・課題・取り組み

行政

- ・ 広報やホームページで、在宅要介護者等無料歯科健診の情報提供をする。
- ・ 介護支援専門員・相談支援専門員等に在宅要介護者等無料歯科健診について情報提供する。
- ・ 介護者家族の集い等で歯科衛生士等が健康教育を行い、口腔ケアの重要性を普及・啓発する。
- ・ 施設職員等に歯科衛生士等が歯科保健指導を実施する。

<評価指標>

評価指標	平成24年度	目標値
在宅要介護者等無料歯科健診事業（県）の利用件数	4件	20件
介護者家族の集い等での健康教育実施回数	0件	15件
定期的に歯科受診する人の割合	23.7%	28.0%

第3章

計画の推進体制



1. 計画の推進体制

市民参画による計画推進を基本とし、関係機関の役割を明確にし、情報の共有化や協力体制の構築により、連携を図りながら、市民一人ひとりの歯とお口の健康づくりを推進します。

村上市では、計画の策定にあたり、関係団体の代表者および関係行政機関の代表者などから構成される「村上市健康づくり推進対策委員会」において審議を行います。

また、充実した歯科保健活動を実施するために、市で歯科衛生士の確保が必要となります。

計画推進体制図



生涯自分の歯でしっかり噛んで食べられる

2. 評価・見直し

この計画は、上位計画である「健康むらかみ21」計画の最終年度である平成26年度をはじめとして5年経過後をめぐりに評価します。毎年、進捗状況を管理していきます。最終評価は計画の最終年度である平成30年度に行い、目標の達成度を検討して次期保健計画とその活動に反映します。

また、この結果は市報やホームページ等で公開し、広く市民との情報の共有を図ります。

第3章 計画の推進体制

3. 評価指標

	項目	基礎データの根拠	現 状	最終年度 (H30年度)
胎 生 期	妊娠中に歯科健診を受ける人の割合	平成24年度 アンケート調査	22.0%	27.0%
	歯間清掃用具(デンタルフロスまたは歯間ブラシ)を使用している割合	平成24年度 アンケート調査	40.9%	45.0%
	歯周病が早産や低出生体重児に影響することを知っている人の割合	平成24年度 アンケート調査	20.2%	25.0%
乳 幼 児 期	3歳児の一人平均むし歯数	平成23年 歯科疾患実態調査	0.8本	0.5本
	3歳児のむし歯有病者率	平成23年 歯科疾患実態調査	23.4%	20.0%
	2歳児の仕上げみがきをしている人の割合	平成24年 2歳児歯科健診結果	92.2%	95.0%
	おやつのだらだら食べをしている園児の割合	平成24年度 アンケート調査	44.9%	40.0%
学 齢 期 ・ 思 春 期	12歳児のむし歯有病者率	平成23年 歯科疾患実態調査	21.2%	18.0%
	12歳児の一人平均むし歯数	平成23年 歯科疾患実態調査	0.48本	0.30本
	歯肉炎のみられる(GO・G)小中学生の割合	平成23年 歯科疾患実態調査	《小学生》 9.2% 《中学生》 26.7%	《小学生》 5.0% 《中学生》 15.0%
	歯間清掃用具(デンタルフロスまたは歯間ブラシ)を使用している小中学生の割合	平成24年度 アンケート調査	《小学生》 21.3% 《中学生》 14.2%	《小学生》 25.0% 《中学生》 20.0%
	仕上げみがきを1日1回以上行っている小学生の割合(小1、2)	平成24年度 アンケート調査	51.3%	55.0%
	歯周病を知っている小中学生の割合(小6、中3)	平成24年度 アンケート調査	27.4%	32.0%

第3章 計画の推進体制

成人期	歯科定期検診をしている人の割合	平成24年度 アンケート調査	31.1%	35.0%
	成人歯科健診受診率	平成24年度 成人歯科健診	9.8%	13.0%
	歯間清掃用具(デンタルフロス・歯間 ブラシ)を使用している人の割合	平成24年度 アンケート調査	53.9%	70.0%
	歯周病が全身に及ぼす影響を 知っている人の割合	平成24年度 アンケート調査	60.1%	65.0%
	喫煙と歯周病の関係を知っている 人の割合	平成24年度 アンケート調査	31.7%	36.0%
	セルフケアができている人の割合	平成24年度 アンケート調査	10.8%	15.0%
老年期	70歳で自分の歯が20本以上 ある人の割合	平成23年度 成人歯科健診	64.2%	70.0%
	80歳で自分の歯が20本以上 ある人の割合	平成24年度 アンケート調査	26.1%	35.0%
介護・障がい	在宅要介護者等無料歯科健診 事業(県)の利用件数	平成24年度 在宅要介護者等無 料歯科健診事業	4件	20件
	介護者家族の集い等での 健康教育実施件数	平成24年度 介護者家族の集い	0件	15件
	定期的に歯科受診する人の割合	平成24年度 アンケート調査	23.7%	28.0%

第3章 計画の推進体制

1. 年次計画

◎ 施策展開(継続のものは平成30年度まで内容を見直しつつ継続実施予定)

胎 生 期			
年度	事業内容	実施主体	新規・継続の別
平成 26 年度	・妊婦歯科健診を実施する	保健医療課	新規
	・パパママ応援教室で栄養指導を実施する	保健医療課	継続
平成 27 年度	・禁煙指導の徹底をする	保健医療課	強化
平成 29 年度	・パパママ応援教室で歯科衛生士による歯科指導を実施する	保健医療課	新規
平成 30 年度	・評価のために妊娠時期にアンケートを実施する		

第3章 計画の推進体制

乳幼児期

年度	事業内容	実施主体	新規・継続の別
平成26年度	・1歳児歯科健診、フッ化物塗布を行う	保健医療課	新規
	・親子歯科健診を実施する	保健医療課	新規
	・10か月児健康相談時に歯科衛生士からの歯科指導を実施する	保健医療課	継続
	・1歳6か月、2歳、2歳6か月、3歳時にフッ化物塗布を実施する	保健医療課	継続
	・保育園の年中児よりフッ化物洗口を実施する	保健医療課	継続
	・健診時に歯科衛生士からブラッシング指導を実施する	保健医療課	強化
	・各保育園での歯科健診、その後の治療勧告をする	福祉課	強化
	・給食やおやつによく噛むメニューを取り入れる	福祉課	強化
平成27年度	・保育園だよりやホームページなどで歯科の健康教育を実施する	保健医療課	強化
平成28年度	・保育園、幼稚園で嘱託歯科医による講話、指導を年1回実施する	福祉課	新規
平成30年度	・評価のために園児保護者にアンケートを実施する		

第3章 計画の推進体制

学 齡 期 ・ 思 春 期

年度	事業内容	実施主体	新規・継続の別
平成26年度	・小学校のフッ化物洗口を実施する	学校教育課	継 続
	・食育事業で歯やお口の健康づくりを実施する	保健医療課	強 化
	・養護教諭との連携	保健医療課	強 化
	・歯間清掃用具を配布する	学校教育課	強 化
	・各小中学校での歯科健診、その後の治療勧告をする	学校教育課	強 化
	・歯みがきの習慣化の徹底を図る	学校教育課	強 化
平成27年度	・小中学校において、歯科衛生士による巡回歯科指導を実施する	保健医療課	強 化
平成28年度	・歯間清掃用具を配布し、歯科衛生士からの歯科指導を実施する	学校教育課	新 規
平成29年度	・中学校でのフッ化物洗口を実施する	学校教育課	新 規
平成30年度	・評価のために小中学校の児童生徒にアンケートを実施する		

第3章 計画の推進体制

成人期

年度	事業内容	実施主体	新規・継続の別
平成26年度	・親子歯科健診を実施する	保健医療課	新規
	・妊婦歯科健診を実施する	保健医療課	新規
	・成人歯科健診を実施する	保健医療課	継続
	・歯周病予防のための講演会を実施する	保健医療課	強化
平成27年度	・歯周病予防のための講演会を実施する	保健医療課	強化
平成30年度	・評価のために住民にアンケートを実施する		

老年期

年度	事業内容	実施主体	新規・継続の別
平成26年度	・口腔機能向上事業を実施する	介護高齢課	強化
平成30年度	・評価のために長寿大学生にアンケートを実施する		

第3章 計画の推進体制

介護・障がい

年度	事業内容	実施主体	新規・継続の別
平成26年度	・介護者家族の集い等で歯科健康教育を実施する	介護高齢課	強化
	・在宅要介護者等無料歯科健診を実施する	介護高齢課	強化
	・介護支援専門員への研修	介護高齢課	強化
平成27年度	・介護支援専門員への研修	介護高齢課	強化
平成28年度	・施設職員等への研修	介護高齢課	強化
平成30年度	・評価のために手帳所持者、介護認定者にアンケートを実施する		

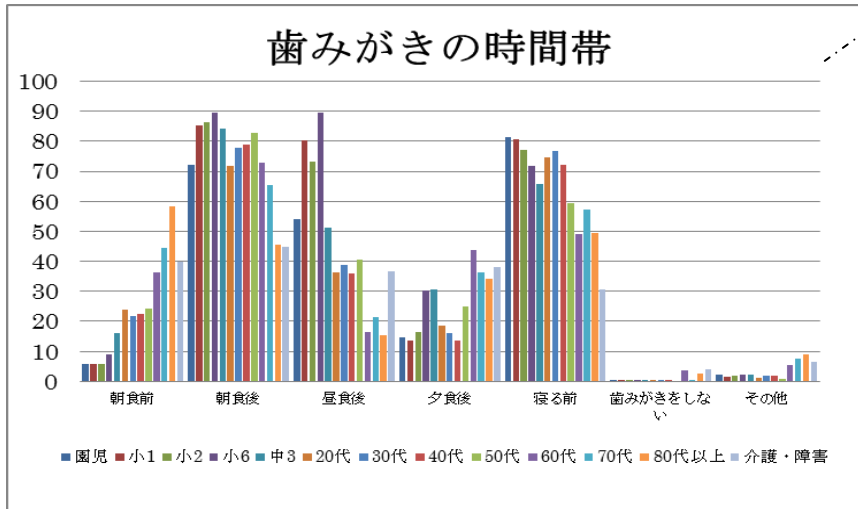
資料編



村上市観光キャラクター
「サケリン」

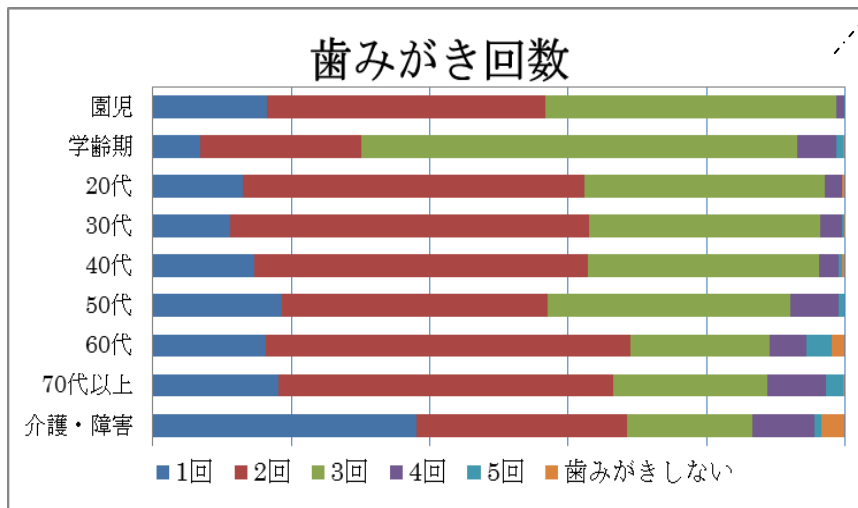
歯科保健計画アンケート調査結果

歯みがきの時間帯はいつですか？



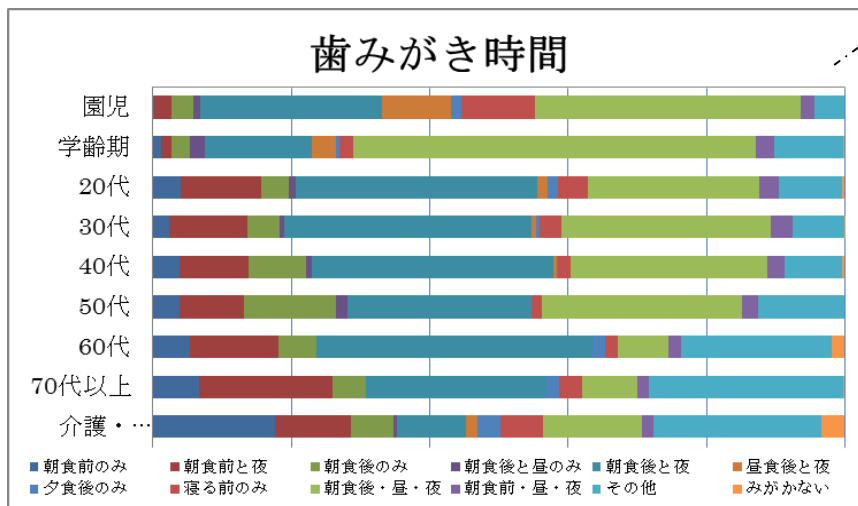
どの年代においても朝食後と寝る前に歯を磨く割合が高かった。学齢期においては、昼食後に歯を磨いている割合が高い。
60代以降になると「歯みがきをしない」と答える割合が高まった。

1日に歯みがきを何回しますか？



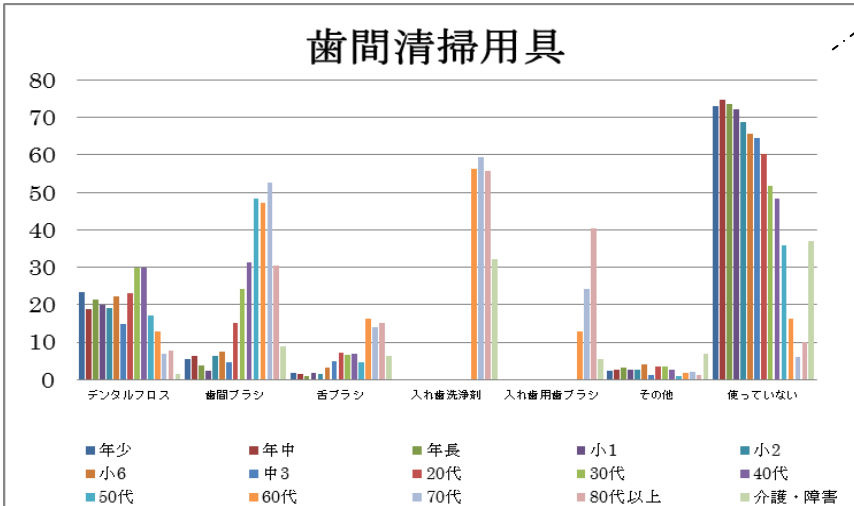
学齢期には、歯みがきを3回以上する割合が69.6%と高かった。その他の年代は、さほど回数に差はでなかった。
介護・障害において、歯みがき1回しか行っていない割合が38.1%と、他の期に比べ倍近くなった。
また、介護・障害では、「歯みがきをしない」と回答した割合が3.3%もいた。

はみがきの時間帯の集計



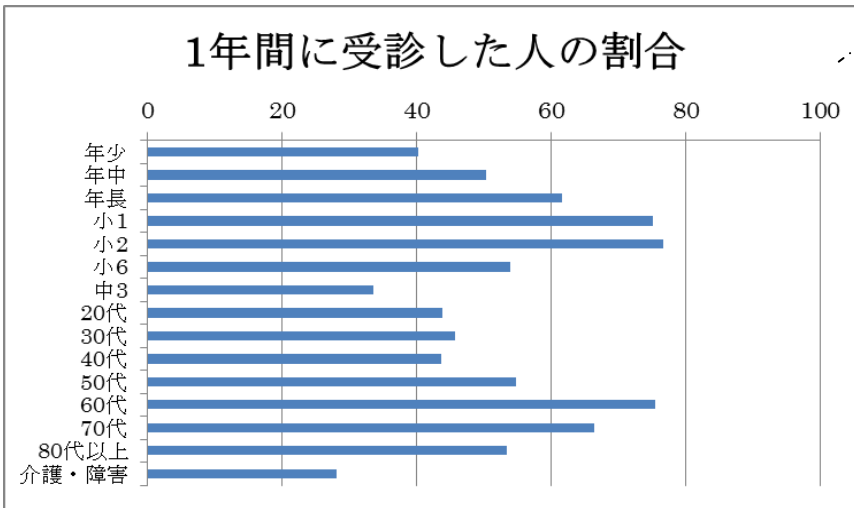
学齢期は、「朝」「昼」「夜」の3回歯みがきをしている割合が多かった。また、成人期になると「朝」「夜」の2回になることが多かった。
※「朝」は「朝食前」「朝食後」を合わせたものとする。「夜」は、「夕食後」「寝る前」を合わせたものとする。

歯ブラシの他に使っているものはありますか？（複数回答あり）



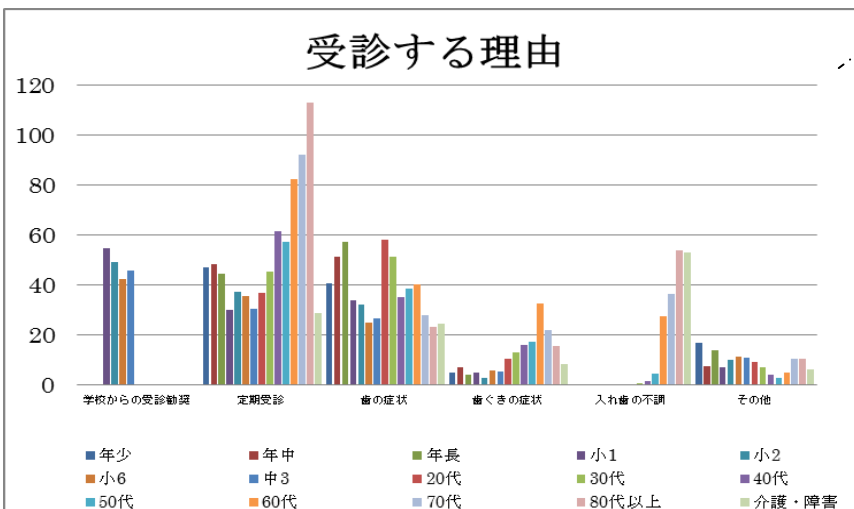
どの年代においても、歯間清掃用具を使っていない割合が高かった。全年齢でも 51.3% が「使用していない」と回答しており、歯間清掃用具を使っていない実態が明らかとなった。

過去 1 年間に歯科医院を受診しましたか？（受診した人のみ表示）



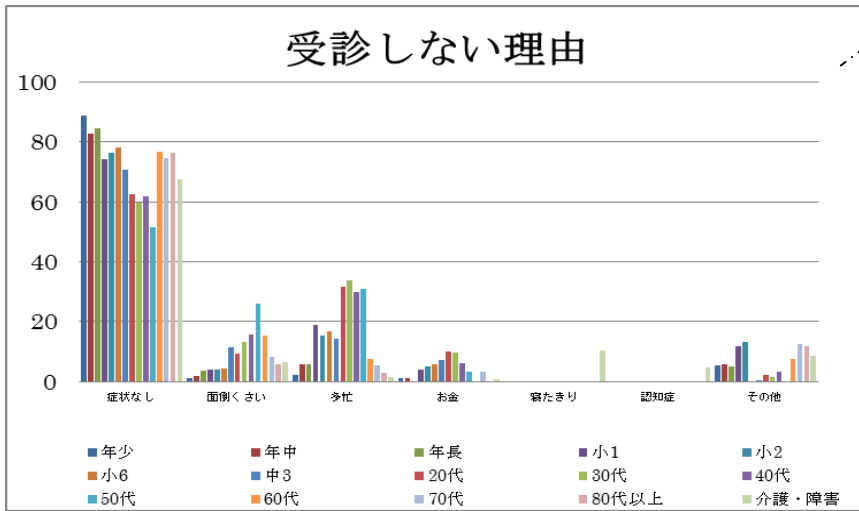
中学校 3 年生の受診者が少なかった。成人期になると年代が高くなるにつれ、受診する傾向が高くなった。介護・高齢については、受診者が 28.0% しかいなかった。

受診した場合、受診する理由は何ですか？（複数回答あり）



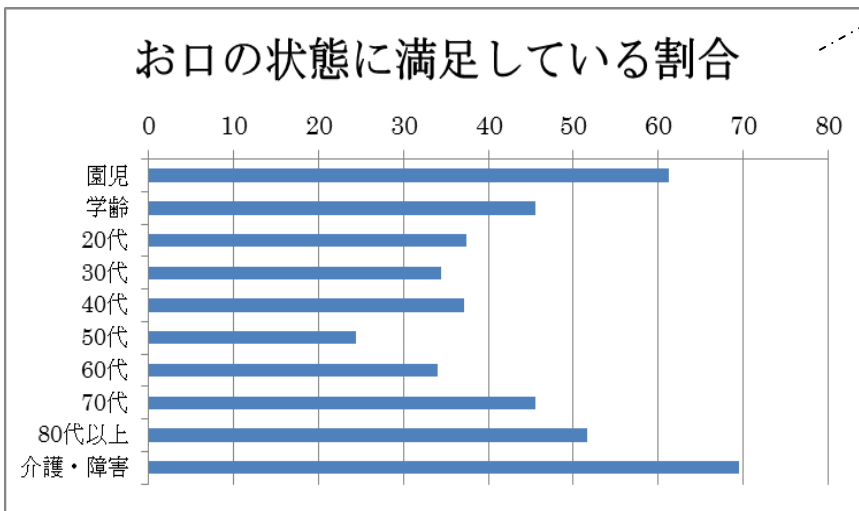
「定期受診のため」と回答している割合が 46.7% と約半数ほどいた。成人期になるとその割合が高まる傾向にあった。

受診しなかった場合、受診しない理由は何ですか？（複数回答あり）



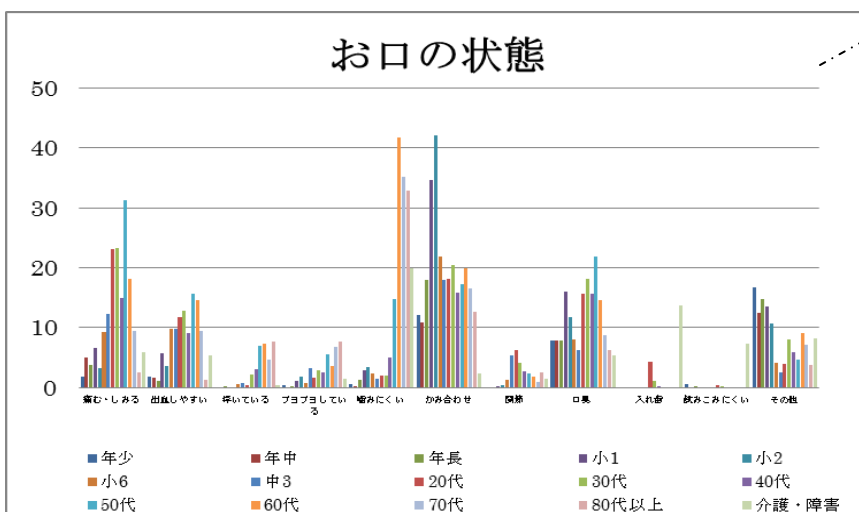
「症状なし」と回答している割合が69.5%と大半を占めた。成人期（20～50代の働いている世代）は、「症状なし」の割合が減少し、「多忙」「面倒くさい」の理由が多くなった。

お口の状態に満足していますか？（満足している人のみ表示）



年齢が高くなるにつれ、満足できない傾向がみられた。成人期になると満足のできない割合が増えた。

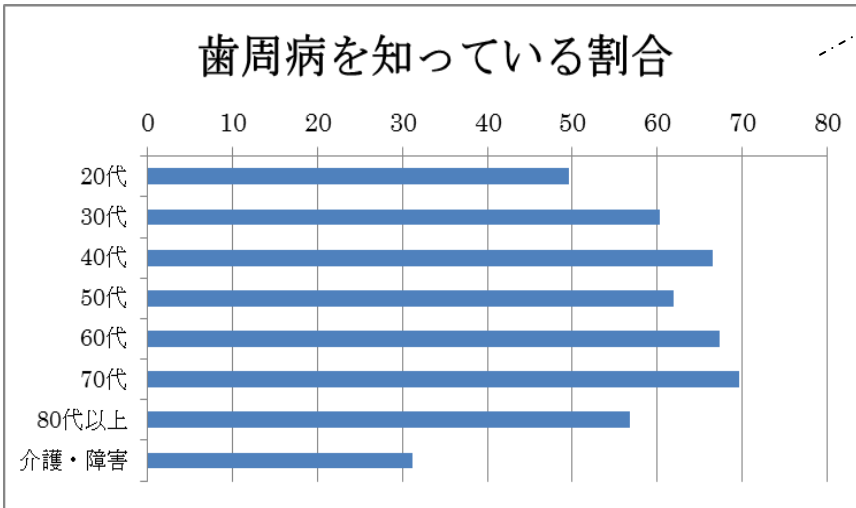
自分の歯やお口の状態で困っていることはありますか？（複数回答あり）



園児や学齢期では、「噛み合わせ」を気にしている人が多く、60代を超えると「噛みにくい」と答える割合が多くなった。

歯周病が全身の健康に影響を与えることを知っていますか？（知っている人のみ表示）

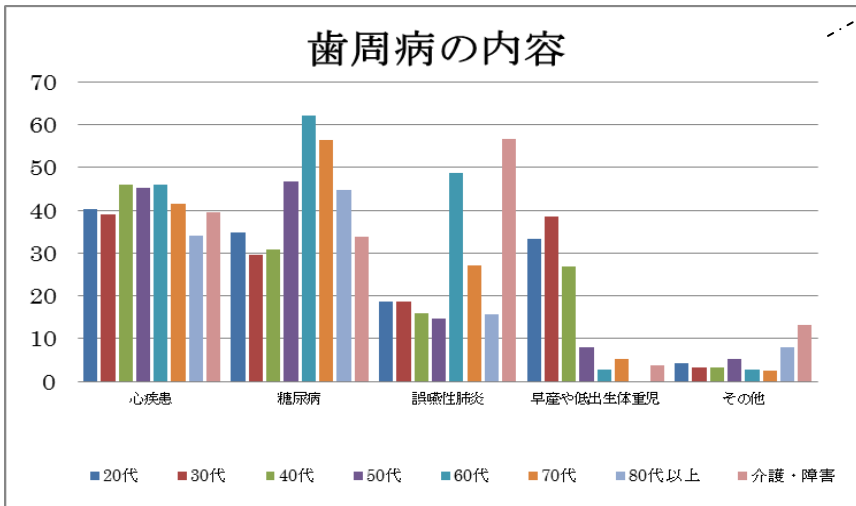
歯周病を知っている割合



20代を除く各年齢の半数以上が「歯周病が全身の健康に影響がある」と答えていた。介護・障害では、その認知度が低かった。

知っているとした場合、歯周病が影響する疾患で知っているものは何ですか？（複数回答あり）

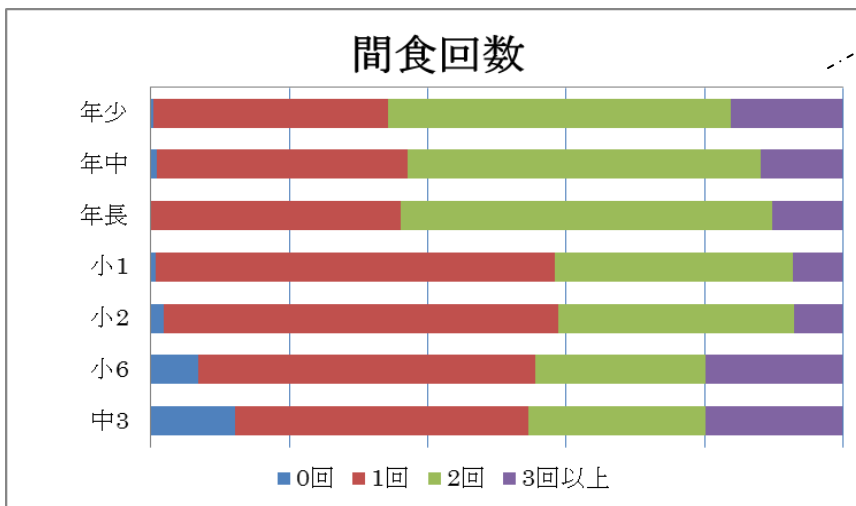
歯周病の内容



歯周病が影響する疾患で知っている割合は、どの疾患も半数には届かなかった。特に、40代くらいまでは、「糖尿病」「誤嚥性肺炎」に影響するという認識は少ないようだ。反対に、50代以降になると「早産や低出生体重児」に影響するという認識はあまりないようだ。

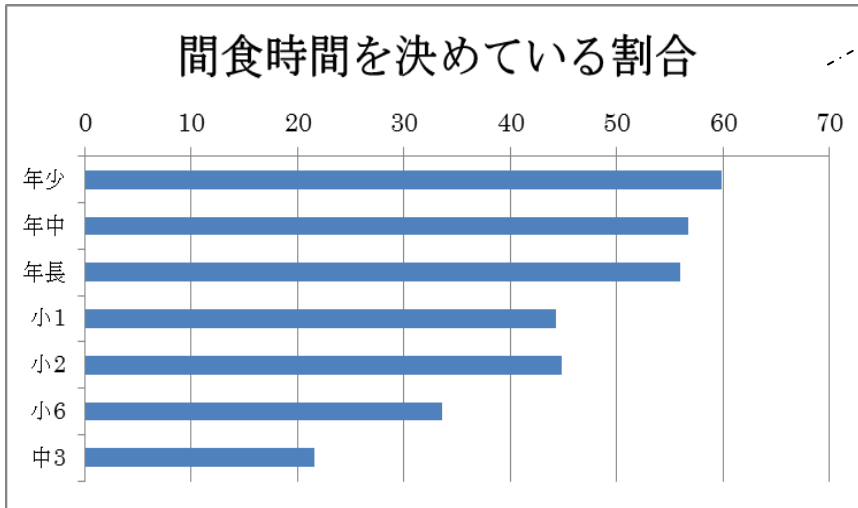
間食の回数は決まっていますか？

間食回数



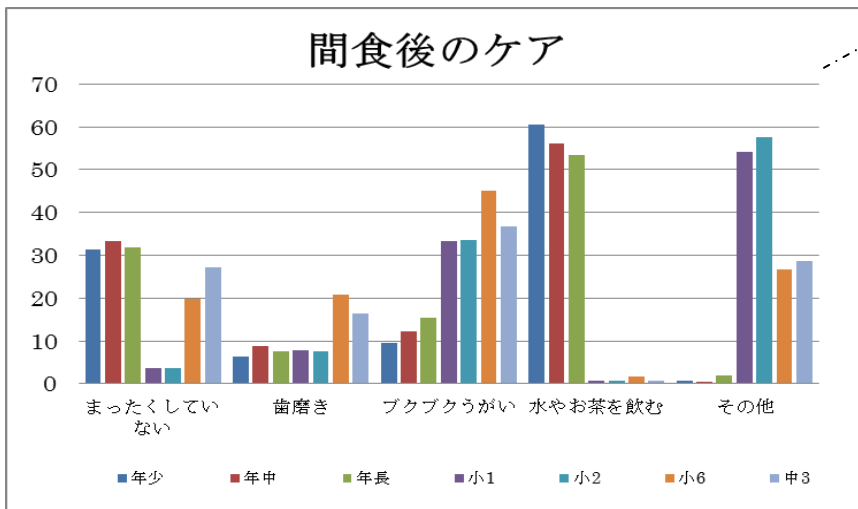
小6と中3の「間食回数3回以上」と答えた割合が多かった。

ですか？（決まっている人のみ表示）



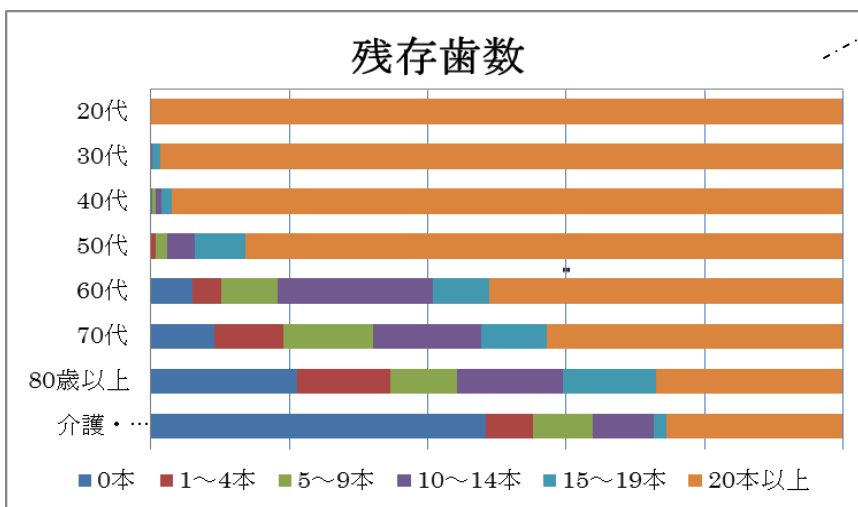
年齢が高くなるにつれ、間食時間を決めていない割合が低くなった。特に、中3では、21.6%にとどまった。

間食後、お口のケアを行っていますか？（複数回答あり）



「年少」「年中」「年長」「中3」において、「まったくしてない」と回答する割合が25%を超えた。

何本の歯がありますか？



50代から60代にかけて、急激な変化が見られた。50代は86.3%だったのに対し、60代になると51.0%にまで減少した。

村上市健康づくり推進対策委員会委員 名簿

(敬称略)

所 属 等	氏 名
村上市岩船郡医師会	村 山 裕 一
村上市岩船郡歯科医師会	村 井 幸 博
村上市区長会連絡協議会	松 田 昭 平
村上市村上地区老人クラブ連合会	佐 藤 忠
村上市みのり保育園保護者会	美 野 香 苗
村上市三面小学校P T A	小 池 徹
村上市食生活改善推進委員会協議会山北分会	田 宮 恵 子
村上地区体育協会	佐 藤 真
村上保健所長	佐々木 綾子
学校教育課長	板 垣 圭
農林水産課長	瀬 賀 功
生涯学習課長	高 田 晃
福 祉 課 長	斎 藤 勉
介護高齢課長	川 内 信 一

村上市歯科保健計画

平成26年3月発行

発行 新潟県村上市

編集 村上市保健医療課

〒958-8501 新潟県村上市三之町1番1号

TEL(0254)53-2111 FAX(0254)53-3840

ホームページ <http://www.city.murakami.lg.jp>